

無投票当選

統一地方選挙の後半戦が終了しました。

夕張市に30歳という若い市長が誕生しました。室蘭市の新市長も33歳ということですから、若い力の台頭はすごいですね。市民の皆さんは、力は未知数でも、その若い力に期待を込めて選んだのだろうなと想像します。

今回の統一地方選挙を見ていて気になることがあります。それは、実質的に選挙が行われなかった自治体が増えているということです。町村長の選挙で見ますと、今回36の町村で選挙が実施されましたが、その内24の町村長が無投票で当選しました。これは、4年前の選挙と比較すると7町村の増という結果でした。

無事に当選された方々には、たとえ無投票ということであっても、お目出度いことに違いはありませんから、私からもお祝いを申し上げたいと思います。

立候補者がいなければ選挙にならないのは致し方ありませんが、このように首長の選挙が実質的に行われないうまま決まるということは、決して良いことだとは思いません。

勿論、現職の首長が大変立派で、勝負にならないという場合もあるでしょうが、まず考えられることは、首長という仕事そのものに魅力がなくなってきたということが挙げられるのではないかと考えています。

地方財政はかつてなく厳しい状況にあり、首長になっても自分のやりたいことができそうもない、ということがあります。

また、財政再建はいずれこの自治体でも焦眉の急であり、その為には、事業仕分けは当然で、場合によっては、人件費の削減という荒療治も覚悟しなければなりません。これから首長になる人は、なかなか骨が折れそうで大変だという印象があります。

また、不祥事など何かことが起これば、首長は真っ先に批判の矢面に立たなければなりません。その一方では、首長の給与は、激務の割には安いということも事実で、やり手の方なら、民間でばりばり稼いだ方がよいと考える人も多いのではないかと思います。

このように首長を取り巻く環境は大変厳しいものがありますので、膨大なエネルギーを使い、選挙を戦ってまで首長になろうという人が減ってくるのも分かる気がします。

しかし、首長は、地域に住む方々の生活に影響を与える大きな存在である、ということを忘れてはなりません。

我々は、まず、首長に対して、そういう重要な仕事をしていることを理解し、敬意を表する必要があると思います。自分たちのまちの運営を人任せにして、巧くいかなければ首長が悪いからということでは、住民自治とはいえません。住民自治は、地域住民の皆さんが自治体の運営に積極的に参加し、共にまち造りを進めていこうという意志のもとにはじめて成り立つものであり、真の住民代表もまた、そういうところに誕生するのではないのでしょうか。

(塾頭 吉田 洋一)